



## 公益財団法人矯正協会の今後の活動について

公益財団法人矯正協会 常務理事 東小 蘭 誠

公益財団法人矯正協会は、明治21年に創立された「大日本監獄協会」を前身としています。同監獄協会は、幕末に締結された諸外国との不平等条約の改正に向けて明治政府が掲げた司法制度と監獄制度の改良整備の方針を民間の立場から支援すべく、当時の監獄官吏を始め刑事司法関係者や国会議員等の有志が会費を出し合い、自主的に設立された団体で、時の矯正行政と密接に結び付いた事業を実施しました。このため、初代会長は山縣有朋内閣総理大臣であり、2代以降33代まで現職の司法大臣が会長職を担った時期が約50年にわたり続きました。こうした創立の精神及び運営の基盤は現在の矯正協会に受け継がれ、現在は、「矯正に関する学術の発展と普及啓発を図るとともに、矯正行政の運営に協力し、犯罪及び非行の防止に寄与する事業を行う」ことを本会の目的としています。

昭和28年9月の「社団法人日本精神保健連盟」の結成に当たっては、同連盟の「精神保健福祉事業の進展を図る」という目的に賛同し、参加8団体の一つとして、発足当初から正会員として現在に至っています。

当協会は、矯正活動に関する調査・資料収集及び普及啓発、矯正活動に関する支援助成を主な事業の内容としています。具体的な事業としては、犯罪及び非行防止に係る刑事政策に関する我が国で唯一の専門図書館（矯正図書館）の運営、刑事政策や矯正活動に関する図書の刊行を行う出版活動、法務省と共催する全国矯正展等の広報活動、矯正に関する調査研究及び資料収集を行い、その成果を紀要として刊行し、各種学会・研究会等において公表する研究活動、犯罪被害者支援団体に対しての助成、矯正施設の被収容者の改善更生と円滑な社会復帰のための

支援、刑務作業に要する原材料を提供してブランド（CAPIC）製品を生産等する刑務作業提供事業、矯正職員の執務執行能力向上のための支援などを行っています。

ところで、令和4年に「刑法等の一部を改正する法律」が成立及び公布され、懲役刑と禁錮刑が廃止され新たに拘禁刑が創設されました。この拘禁刑下においては、個々の受刑者の特性に応じて、作業と指導を柔軟に組み合わせた矯正処遇が行われることとなり、今以上に効果的な矯正処遇の実施体制が求められることとなりました。

このような中、刑事施設においては、高齢化や生活習慣病の増加など医療需要が増加している状況にあり、加えて、高齢又は障害を有し適当な帰住先がない受刑者に対する福祉的支援への取組も重要性を増し、矯正施設の医師・看護師・准看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士等医療関係職員等の役割は非常に大きいものになっています。

当協会では、刑事政策を中心とした最新の情報を矯正職員、関係機関、大学などの多くの方々に提供するため、刑事政策の学識経験者等を招き定期的に講演会を行い、その講演場面をYouTubeで配信する事業「矯正協会未来フォーラム」を始めました。また、矯正職員の職務執行能力の向上支援として、新たに、動機づけ面接ワークショップ、リフレクティングワークショップ、箱庭療法研修会を開催するなど矯正活動に対する支援の充実に努めています。

今後も、矯正行政に関連する情報発信、有意義な研究・ワークショップの開催、拘禁刑下での有用な刑務作業の提供等、矯正行政の運営に協力していきたいと考えています。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

# 第71回精神保健福祉全国大会が開催される

公益社団法人日本精神保健福祉連盟 事務局長 加賀山 成久

第71回精神保健福祉全国大会は、令和6年10月11日、栃木県宇都宮市内の栃木県総合文化センターメインホールにて開催されました。

本大会は、厚生労働省及び公益社団法人日本精神保健福祉連盟が主催し、栃木県、宇都宮市、一般社団法人栃木県精神衛生協会及び公益社団法人日本精神科病院協会栃木県支部が共催しました。さらに、最高裁判所や内閣府をはじめとする関係官公庁、多数の関係ある全国組織・団体並びに栃木県内の組織・団体・メディア関係者の方々からの後援を頂きました。

本大会は、「今こそ歩みを～いつでも繋がり支え合う地域共生社会～」をテーマとし、大会趣旨は、障害や障害者への理解促進が図られ、障害のある人もない人も互いに認め合い、尊重し、支え合いながら暮らす地域共生社会を実現するため、大会を通じて、関係者並びに地域社会における精神保健福祉に関する理解を深め、正しい知識の普及と精神保健福祉施策の推進を図ることといたしました。

午前10時から始まった記念式典においては、前回開催地の大分県から「心を開く鍵」の引継ぎが行われた後、大会実行委員会会長(朝日公彦)による開会の言葉に続き、日本精神保健福祉連盟会長(鹿島晴雄)による式辞、厚生労働大臣、栃木県知事、宇都宮市長による挨拶がございました。その後、精神保健福祉事業功労者表彰が行われ、個人62名及び12団体に厚生労働大臣表彰状を授与しました。次いで日本精神保健福祉連盟会長表彰が行われました。受賞者の方々には、心からお慶びを申し



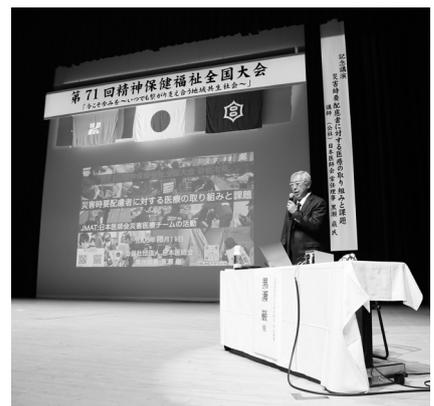
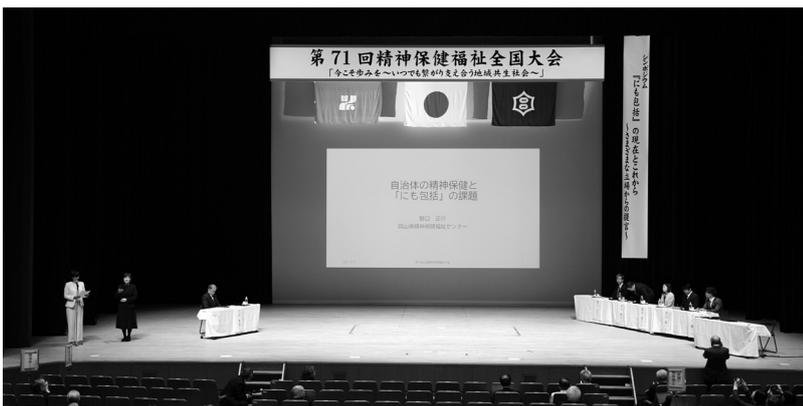
上げますとともに、長年にわたる御努力と御功績に衷心から敬意を表する次第であります。

記念講演では、講師に公益社団法人日本医師会の黒瀬巖常任理事をお迎えし、「災害時要配慮者に対する医療の取り組みと課題」について、講演をいただきました。能登半島地震に派遣された日本医師会災害医療チーム(JMAT)の活動報告では、「避難所では身体的ケアと並んで適切な心のケアが大切」「要配慮者への対応の強化が必要」と強調されました。

午餐会を挟んで、午後には、「『にも包括』の現在とこれから～さまざまな立場からの提言～」をテーマにシンポジウムが行われました。大会実行委員会の前沢孝通副会長(公益社団法人日本精神科病院協会栃木県支部長)が座長となり、厚生労働省で関連施策を推進する立場、近年の精神保健福祉分野における政策研究に従事する立場、市町村において様々な実践に当たられる行政の立場、地域の相談支援事業所において当事者支援に取り組まれている立場、当事者の居住支援に取り組まれる立場のそれぞれから貴重な意見、提言を頂戴しました。共通項としては「連携、支え合い、バックアップ」という多職種多機関の支援者のネットワークの構築が非常に重要であるとの指摘でありました。

最後に、大会実行委員会委員の佐藤勇人(栃木県精神衛生協会副会長)から閉会の挨拶があり、盛況のうちに閉会いたしました。

本大会の開催に当たり、大会実行委員会の朝日会長はじめ栃木県、宇都宮市並びに関係団体の皆様方には一方ならぬ御尽力を賜りました。心から厚く御礼申し上げます。



# 令和6年度精神保健福祉事業功労者表彰

## 厚生労働大臣表彰受賞者 個人（都道府県推薦）（40名）

青森県	<b>坂本 卓子</b> つがる西北五広域連合つがる総合病院（医師）
岩手県	<b>上田 均</b> もりおか心のクリニック（医師）
宮城県	<b>千葉 英明</b> 広瀬通クリニック（医師）
宮城県	<b>小島 照正</b> 医療法人小島慈恵会小島病院（医師）
秋田県	<b>齋藤 英和</b> 秋田県厚生農業協同組合連合会能代厚生医療センター（医師）
山形県	<b>池野 久男</b> 山形県精神保健福祉会（団体役員）
茨城県	<b>高沢 彰</b> 医療法人碧水会夕ヶ崎病院（医師）
栃木県	<b>下田 和孝</b> 地方独立行政法人栃木県立岡本台病院（医師）
栃木県	<b>興野 憲史</b> 栃木県精神保健福祉会（団体役員）
群馬県	<b>村山 昌暢</b> 赤城高原ホスピタル（医師）
埼玉県	<b>池澤 明子</b> 医療法人至信会池沢神経科病院（医師）
千葉県	<b>小池 健</b> 医療法人社団全生会江戸川病院（医師）
千葉県	<b>志津 雄一郎</b> 医療法人社団双和会志津クリニック（医師）
東京都	<b>紫藤 昌彦</b> 紫藤クリニック（医師）
神奈川県	<b>増田 直樹</b> 医療法人社団増田厚生会清川遠寿病院／橋本こころのクリニック（医師）
神奈川県	<b>秋元 浩</b> はぎもとクリニック（医師）
新潟県	<b>和知 学</b> 特定医療法人青山信愛会新潟信愛病院（医師）
富山県	<b>福井 靖人</b> 医療法人社団緑心会砺波サナトリウム福井病院（医師）
石川県	<b>山川 孝子</b> 社会医療法人財団松原愛育会（精神保健福祉士）
福井県	<b>三崎 究</b> 医療法人厚生会福井厚生病院（医師）

山梨県	<b>中谷 真樹</b> 公益財団法人住吉偕成会住吉病院（医師）
長野県	<b>倉石 和明</b> 公益財団法人倉石地域振興財団栗田病院（医師）
静岡県	<b>杉本 富太郎</b> 公益社団法人静岡県精神保健福祉会連合会（団体役員）
愛知県	<b>大高 一則</b> 医療法人大高クリニック（医師）
愛知県	<b>藤田 潔</b> 医療法人静心会桶狭間病院藤田こころケアセンター（医師）
三重県	<b>近藤 良己</b> 公益社団法人三重断酒新生会（団体役員）
滋賀県	<b>望月 隆夫</b> 一般社団法人水口病院（団体役員）
大阪府	<b>三家 英明</b> 医療法人三家クリニック（医師）
大阪府	<b>長谷川 武</b> 一般社団法人大阪府断酒会（団体役員）
奈良県	<b>濱田 剛</b> 株式会社八重桜（調理師）
島根県	<b>吉岡 幸江</b> 公益社団法人島根県断酒新生会家族会（団体役員）
岡山県	<b>吉村 友江</b> 医療法人勲友会味野医院（医師）
広島県	<b>石田 洋子</b> 広島県立総合精神保健福祉センター（管理栄養士）
徳島県	<b>鈴木 和人</b> 医療法人鈴木会ほのぼのホスピタル（医師）
愛媛県	<b>曾根 康義</b> 一般財団法人創精会松山記念病院（看護師）
福岡県	<b>安松 聖高</b> 医療法人聖恵会福岡聖恵病院（医師）
佐賀県	<b>鮫島 隆晃</b> 医療法人健心会鮫島病院（医師）
熊本県	<b>中田 榮治</b> 医療法人信和会城ヶ崎病院（医師）
宮崎県	<b>首藤 謙二</b> 医療法人恵喜会西都病院（医師）
沖縄県	<b>宮里 澄子</b> 久米島町役場（保健師）

## 厚生労働大臣表彰受賞者 個人（公益社団法人日本精神保健福祉連盟推薦）（22名）

北海道	<b>佐藤 亮藏</b> 医療法人社団大蔵会札幌佐藤病院（医師）
北海道	<b>谷 博</b> 社会医療法人博友会平岸病院（医師）
青森県	<b>平井 整</b> 一般財団法人愛成会弘前愛成会病院（看護師）
宮城県	<b>小高 晃</b> 医療法人松田会エバーグリーン病院（医師）
群馬県	<b>田中 永</b> 医療法人群栄会田中病院（医師）
千葉県	<b>宮田 由美子</b> 特定非営利活動法人千葉県断酒連合会（団体役員）
東京都	<b>牧野 英一郎</b> 医療法人社団総合会武蔵野中央病院（医師）
神奈川県	<b>鈴木 さつき</b> 医療法人弘徳会愛光病院（准看護師）
石川県	<b>新矢 芳子</b> 医療法人社団澄鈴会栗津神経サナトリウム（看護師）
山梨県	<b>益子 邦子</b> 学校法人自然学園自然学園高等学校（教員）

滋賀県	<b>和田 吉郎</b> 社会福祉法人青祥会セフィロト病院（看護師）
大阪府	<b>西浦 啓之</b> 医療法人西浦会京阪病院（医師）
奈良県	<b>石田 陽彦</b> 関西大学（教員）
広島県	<b>大谷 達夫</b> 医療法人社団二山会宗近病院（医師）
広島県	<b>森岡 壮充</b> 森岡神経内科（医師）
香川県	<b>森口 めぐみ</b> 医療法人社団五色会こころの医療センター五色台（看護師）
香川県	<b>大平 芳美</b> 医療法人社団三和会しおかぜ病院（看護補助者）
高知県	<b>杉本 園子</b> 医療法人精華園海辺の杜ホスピタル（公認心理士）
福岡県	<b>林田 憲昌</b> 医療法人昌和会見立病院（医師）
福岡県	<b>川口 直宏</b> 医療法人社団豊永会心のクリニック・飯塚（精神保健福祉士）

鹿児島県 **赤崎 安隆**  
医療法人赤崎会赤崎病院（医師）

沖縄県 **渡邊 裕貴**  
医療法人天仁会天久台病院（医師）

厚生労働大臣表彰受賞者 団体（都道府県推薦）（9団体）

山形県 **特定非営利活動法人With優**  
白石 祥和

群馬県 **群馬県断酒連合会**  
藤田 榮吉

埼玉県 **特定非営利活動法人さいたまマック**  
杉村 利政

千葉県 **精神障害者家族会なりた会**  
佐久間 富男

福井県 **日本発達障害ネットワーク福井**  
清水 聡

愛知県 **精神保健福祉ボランティアグループ「かたつむり」**  
浅井 博子

広島県 **社会福祉法人江田島市社会福祉協議会**  
堂野崎 平

愛媛県 **精神障害者地域家族会岬家族会**  
古澤 傳治郎

宮崎県 **特定非営利活動法人こぼやしハートム**  
尾崎 幸廣

厚生労働大臣表彰受賞者 団体（公益社団法人日本精神保健福祉連盟推薦）（3団体）

群馬県 **特定非営利活動法人群馬県精神障害者社会復帰協議会**  
【理事長】小暮 明彦

神奈川県 **横浜断酒新生会**  
【会長】五十嵐 邦光

福岡県 **特定非営利活動法人くるめ出逢いの会**  
【代表理事】坂本 喜教

公益社団法人日本精神保健福祉連盟会長表彰受賞者 個人（34名）

北海道 **花井 忠雄**  
特定医療法人さっぽろ悠心の郷とさわ病院（医師）

北海道 **宗 代次**  
特定医療法人社団慈藻会平松記念病院（医師）

宮城県 **大竹 伸治**  
東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科（准教授）

秋田県 **阿部 文博** 特定非営利活動法人秋田県精神保健福祉会連合会 理事長

栃木県 **前澤 清**  
栃木県断酒ホトトギス会 理事長

群馬県 **中島 佳子** 医療法人社団山崎会サンピエール病院（事務兼リハビリ助手）

埼玉県 **生馬 義久**  
特定非営利活動法人東京断酒新生会 理事長

埼玉県 **嶋田 兆央**  
公益社団法人埼玉県断酒新生会 理事長

千葉県 **伊藤 正和**  
特定非営利活動法人千葉県断酒連合会 理事

千葉県 **岩瀬 智**  
千葉刑務所／国家公務員（法務事務官）

東京都 **日浦 宗二**  
東京多摩断酒連合会 会長

東京都 **山崎 千鶴子** 一般財団法人精神医学研究所附属東京武蔵野病院（看護師）

東京都 **若林 大地**  
府中刑務所／国家公務員（法務事務官）

神奈川県 **山田 直**  
横浜刑務所／国家公務員（法務事務官）

神奈川県 **吉崎 弘之**  
医療法人正永会港北病院（看護師）

新潟県 **花田 政之**  
医療法人白日会黒川病院（看護師）

富山県 **丸本 薫**  
医療法人社団和敬会谷野呉山病院（作業療法士）

石川県 **中島 伸治** 社会医療法人財団松原愛育会松原病院（診療放射線技師）

山梨県 **市川 研介**  
甲府刑務所／国家公務員（法務事務官）

愛知県 **鈴木 祐一郎**  
公益社団法人岐阜病院（医師）

滋賀県 **雑賀 正明**  
社会福祉法人青祥会セフィロト病院（精神保健福祉士）

大阪府 **山本 修平**  
医療法人和泉会和泉丘病院（事務長）

兵庫県 **岡山 多寿**  
医療法人財団光明会明石こころのホスピタル（看護師）

兵庫県 **西村 浩** 社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院（看護師）

兵庫県 **山本 訓也**  
公益財団法人復光会垂水病院（医師）

奈良県 **南 尚希**  
医療法人南風会万葉クリニック（医師）

岡山県 **小橋 みち子**  
一般財団法人河田病院（看護師）

香川県 **荒田 進**  
医療法人社団三和会しおかぜ病院（看護師）

香川県 **久野 保**  
医療法人社団光風会三光病院（看護師）

高知県 **西森 正人**  
医療法人須藤会土佐病院（看護師）

福岡県 **高山 多美子** ソーシャルファーム高山株式会社就労継続支援A型事業所SFT 代表取締役

大分県 **宮本 武司**  
医療法人同仁会大分下郡病院（医師）

宮崎県 **上野 香代子**  
医療法人一誠会都城新生病院（看護師）

沖縄県 **前川 敏彦**  
医療法人天仁会天久台病院（医師）

公益社団法人日本精神保健福祉連盟会長表彰受賞者 団体（5団体）

青森県 **じゅんちゃん一座**  
【座長】竹内 淳子

茨城県 **水戸断酒会**  
【会長】渡辺 克弘

栃木県 **宇都宮断酒会**  
【会長】野澤 篤

群馬県 **社会福祉法人アルカディア**  
【理事長】中田 駿

福岡県 **社会福祉法人つつみ会あゆみヶ丘**  
【施設長】末崎 伸一郎

# 第23回全国障害者スポーツ大会佐賀大会 個人競技卓球（精神障害）が開催された

日本精神保健福祉連盟精神障がい者スポーツ推進委員会 委員 河本次生

令和6年10月26日（土）～27日（日）の2日間、第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」（以下、全スポ）卓球競技が佐賀県基山町総合体育館で行われ、選手団、大会関係者、観覧者を合わせ2日間延べ3,200名の参加がありました。

卓球精神障害（以下、卓球精神）は、バレーボールに続き、全スポで精神障害者が参加できる2つ目の種目であり、個人種目では初めてとなります。2019年全スポ茨城県大会から個人種目の卓球に精神が位置付けられましたが、台風やコロナ禍で中止となり、2022年全スポ栃木県大会でようやく初参加となり、前回の鹿児島県大会に続き、今回の佐賀県大会が3回目となります。

卓球精神は、健常者の卓球競技と同じルールですが、精神状態や体力などを考慮して、介助が必要な選手は、介助者が競技場内に同伴し、競技中のサポートを受けることもできます。試合は、体育館18面コートに身体・知的・精神の選手が分かれ、そのうち4面を知的障害と精神障害の男女で行いました。知的障害と精神障害の対戦もありますが、表彰は障害区分ごとです。卓球精神は、各ブロック3～4名のリーグ戦で行われ、各ブロック3位まで金・銀・銅メダルがもらえました。「緊張で眠れなかった」という選手も見られましたが、2日間どの試合も白熱し、体育館には横断幕と一緒に熱の入った応援団の声援が飛び交い、体育館は熱気に満ちていました。表彰式では、試合の高揚感からか疲れも見せず、みな表情豊かに写真撮影をしていたことが印象的でした。また「卓球MVP（最優秀選手）賞」が設けられ、精神障害も男女1名ずつが表彰され副賞が授与されました。

今回参加した卓球選手は420名です。障害の内訳は、身体障害176名（41.9%）、知的障害145名（34.5%）、精神障害99名（23.6%）となっています。うち身体障害は肢体障害102名、視覚障害50名、聴覚

障害24名に分かれ、さらに肢体障害は15の障害区分で選出されています。精神障害は、各選手団（67自治体）から男女1名ずつの参加枠であり、男子54選手団（80.6%）、女子37選手団（55.2%）の参加でした。全スポ3回目となる卓球精神の参加でしたが、まだ選手選考ができない選手団が複数あり、全選手団から参加できる体制整備が望まれます。

精神障害者スポーツは、近年注目を集めています。依然として課題も多く存在します。「競技への参加機会の不足」「指導者の不足」「財政的な支援の不足」など、これらの課題を克服し、精神障害者スポーツをより発展させるためには、行政機関、医療機関、福祉施設、スポーツ団体との連携、そして地域住民の理解が不可欠です。精神障害者スポーツは、心のバリアフリーを実現し、誰もが社会の一員として活躍できる社会の実現に貢献できる可能性を秘めています。機会があれば、ぜひ精神障害者スポーツの普及と発展に積極的に取り組み、当事者の可能性を最大限に引き出すための支援に関わっていただくと幸いです。



# 第23回全国障害者スポーツ大会佐賀大会 団体競技バレーボール（精神障害）の報告

日本精神保健福祉連盟精神障がい者スポーツ推進委員会 委員 田所淳子

令和6年10月26日（土）～27日（日）、第23回全国障害者スポーツ大会が佐賀県小城市において開催された。小城市は佐賀市の西隣に位置し、車で30分

程度、旧4町が平成に合併したのどかな市街地である。米作や海苔が有名で、かつては商業が栄えた町だったらしい。その小城市の小城のりスポーツセン

ター（旧小城市芦刈文化体育館）で、表記の大会が開催された。

参加チームは全国6ブロックの代表である青森県、横浜市、福井県、大阪府、岡山県、鹿児島県と、開催地である佐賀県チームの合計7チームであった。

1回戦から、3セット目までもつれる試合や、デュースになって競り合う試合など、力が拮抗している組み合わせも多く、見ごたえがあった。

1日目にはもう、1回戦を勝ち抜いてきた3チームと、シードされていた1チーム、つまり4強が出そろった。

準決勝1試合目は福井県対佐賀県。佐賀県はご当地だけあり、大人数の応援団の下で果敢に挑んだが、福井県は昨年の優勝チーム、その貫禄を見せつけた結果になった。

準決勝2試合目は、鹿児島県対横浜市。横浜市は関東ブロック代表だが、数年ぶりの出場。エースはこの道20年のベテランである。鹿児島県は、近年新進気鋭のチームで、昨年の鹿児島県での全国大会ではご当地チームで出場し、決勝戦で福井県に敗れている。鹿児島県としては、何としてでも準決勝を勝ち抜き、福井県にリベンジしたいところだろう。その熱意が通じたのか、鹿児島県は横浜市の追従を寄せ付けず、決勝に駒を進めた。

結果、決勝戦は福井県対鹿児島県、昨年と同じカードの因縁対決。3セットまでもつれにもつれたシーソーゲームとなったが、最後は福井県がうまく逃げ切った形になり、2連覇を成し遂げ、満面の笑みを浮かべた監督は胴上げで宙に舞った。鹿児島県は

2年連続で準優勝、何とも悔しそうだった。

試合ではどのチームも闘志むき出しになるが、表彰式後には各チーム同士と一緒に記念撮影する姿があった。チームを越えて選手同士の仲が良く、交流も盛んにしていることに感心する。大きな怪我やトラブルもなく、佐賀大会は終了した。来年は滋賀県草津市で開催される予定だ。

全国障害者スポーツ大会でバレーボール競技精神障害者が正式種目となってから、16年が経過した。途中、新型コロナウイルス感染症や台風により大会が中止になった年を除くと、全国大会は14回開催された。オープン競技の時代を経てこの競技が社会参加活動として十分浸透してきた、と思われる反面、今だに代表が選出されない都道府県・指定都市や、バレーボールチームの活動がなされていない地域があり、地域格差が見られる。そのような地域にもバレーボールをしたい精神障害者はいるかもしれない。どうか、やりたいスポーツに取り組める環境が日本中で整うことを願いたい。



## 賛助会員募集



### 会費

毎年4月1日から始まり、翌年3月31日までを事業年度としています。

【年会費】 個人 一口 5,000円以上

団体・法人 一口 30,000円以上

※ 年度途中のご入会につきましても当該年度分を納入して頂くこととなります。

### 入会

「賛助会員入会申込書」に記入の上、FAX、郵送、メールにて直接連盟事務局へ届け出下さい。

入会については、当連盟理事会において承認を得た後、追ってご通知申し上げます。

## 〈編集後記〉

公益社団法人日本精神保健福祉連盟（連盟）は、我が国の精神保健福祉7団体（正会員）等で構成されています。連盟では、正会員活動の理解促進と協働等の広報活動を行っています。連盟QRコードでアクセスされ、我が国の精神保健福祉活動の現状を広く理解されると幸いです。メンタルヘルスの問題は様々な課題解決が必要となります。メンタルヘルス問題に長らく関わって来られた方々を表彰し、次の活力に向けた笑顔になると幸いです。また、障がい者スポーツ・全スポ（手帳所持者）では、メンタルヘルス問題を持つ方々の仲間づくり、就労・社会参加に寄与します。（T. T.）

## 編集委員会

委員長 高畑 隆 公益社団法人日本精神保健福祉連盟理事  
委員 中庭 良枝 一般社団法人日本精神科看護協会本部事務局本部長  
中田 貴晃 キューブ・インテグレーション株式会社  
松井 知子 杏林大学元教授

発行 2025年2月1日

発行者 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

会長 鹿島 晴雄

〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14

TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309

Email : office-renmei@f-renmei.or.jp

HP : <http://www.f-renmei.or.jp/>

